

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-190	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
50 大修館	論国 050-902	新編 論理国語 改訂版		

1. 編修の基本方針

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的、批判的、創造的に考える力を伸ばし、言葉で伝え合う力を高めることができるよう配慮する。
- ・言葉がもつ価値への認識を深め、語彙を豊かにし、言葉を使いこなす力を身につけるとともに、生涯にわたって読書に親しむ態度を養い、他者や社会に対する関心を育むことができるよう配慮する。
- ・教育基本法第2条に示された教育目標への対応に配慮しつつ、現代社会における多様な話題・題材を提示して生徒の興味・関心を喚起し、言語活動をとおして生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮する。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
【第Ⅰ部 論理を培う】 1 論理と出会う 風をとおす／「論理的な人」とはどういう人か／「論理」への第一歩／「論理」とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との関わりや論理的に考えることに興味をもつことをねらいとし、「風をとおす」「『論理的な人』とはどういう人か」を収録した。(第1号) ・論理的な考え方の基礎を身につける教材を位置づけた。(第1号) 	pp. 11-26
2 具体と抽象 具体と抽象の関係／突然変異と進化の関係／「話せばわかる」は当然か／ウサギの耳はなぜ長い？／具体と抽象を使いこなそう／さまざまな具体化	<ul style="list-style-type: none"> ・具体と抽象の関係を的確に読み取る力を身につける教材として、「突然変異と進化の関係」「『話せばわかる』は当然か」「ウサギの耳はなぜ長い？」を収録した。(第1・4号) ・具体と抽象の関係を理解し、自ら使いこなす力を養うことができる教材を位置づけた。(第1号) 	pp. 27-52
3 対比をとらえる 比べて説明する／米の種類と食文化／対話の精神／デジタル地図から見える世界／対比を使って主張する／対比を使いこなす	<ul style="list-style-type: none"> ・対比を的確に読み取る力を身につける教材として、「米の種類と食文化」「対話の精神」「デジタル地図から見える世界」を収録した。(第1・5号) ・対比を用いて説明したり、自分の意見を主張したりする力を養うことができる教材を位置づけた。(第1号) 	pp.53-76
4 主張をつかむ 主張と根拠を考える／文化としての科学／登山はスポーツか旅か／人工の自然／要約の方法／根拠のいろいろ	<ul style="list-style-type: none"> ・主張と根拠の関係を的確に読み取る力を身につける教材として、「文化としての科学」「登山はスポーツか旅か」「人工の自然」を収録した。(第1・2号) ・主張と根拠の関係を適切につかみ、文章を要約する力を養うことができる教材を位置づけた。(第1号) 	pp.77-100
5 論理的に書く ——小論文① 根拠をふまえて主張を書こう／構成を考えて書こう／反論を想定して書こう／文章を磨き上げよう	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明確にして主張を展開したり、自分の意見を論理的に述べて他者を説得したりする力を養うことができる教材を位置づけた。(第1号) 	pp. 101-110
6 統計資料を活用する 文章と資料を関連づけて読む／量の時代から質の時代へ／消費者意識に関する調査／若者の「海外旅行離れ」は本当か？／若者の消費行動について／統計資料を活用しよう／グラフの種類と特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・文章と統計資料を関連づけながら的確に内容を読み取る力を身につける教材として、「量の時代から質の時代へ」「若者の『海外旅行離れ』は本当か？」を収録した。(第1・4・5号) ・統計資料を的確に読み取った上で、自分の主張を展開する力を養うことができる教材を位置づけた。(第1号) 	pp. 111-126

<p>7 比べて読む 情報を比較・整理する／「言葉の揺れ」を認めるか／紙の本はなくならない／情報化と紙の本のゆくえ／比べて読もう／情報整理の方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定のテーマについて書かれた二つの文章を比較しながら読み、自分の意見をもつための教材として、「『言葉の揺れ』を認めるか」「紙の本はなくならない」「情報化と紙の本のゆくえ」を位置づけた。(第1・5号) ・特定のテーマについて書かれた二つの文章を比較し、自分の考えを広げたり深めたりする力を養うことができる教材を位置づけた。(第1・5号) 	pp. 127-150
<p>8 レポートを書く テーマを決め、問いを立てよう／情報を収集しよう／情報を整理しよう／レポートをまとめよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな方法を用いて情報を収集・整理し、考察したことをわかりやすく文章にまとめる力を育む教材を位置づけた。(第1・2号) 	pp. 151-160
<p>読書の広場 「夢中」ということ／「きっと叶いますよ」／コルベ神父</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって読書に親しむ態度を養うことをねらいとし、〈読書の広場〉に『『夢中』ということ』『『きっと叶いますよ』『コルベ神父』を位置づけ、末尾にブックガイドを付した。(第1・2・3・5号) 	pp.161-174
<p>【第Ⅱ部 論理を活用する】 1 自分を広げる 探究する力／補助線を引きながら考える／自分を客観的に見つめよう／論理はなぜ必要か</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の将来に目を向けさせる教材として、「探究する力」「補助線を引きながら考える」を位置づけた。(第1・2・3号) ・自分自身を客観的かつ肯定的にとらえ、自分の長所を社会の中で生かしていく姿勢を育むことができる教材を位置づけた。(第1・2・3号)。 	pp. 175-190
<p>2 文化を見つめる 和の思想、間の文化／アートの作用／ミロのヴィーナス／根拠を吟味しよう／根拠を吟味する観点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな文化のあり方についての理解を深める教材として、「和の思想、間の文化」「アートの作用」「ミロのヴィーナス」を収録した。(第1・5号) ・具体例の妥当性や因果関係、理由づけをとらえ、根拠を吟味する力を養うことができる教材を位置づけた。(第1号) 	pp. 191-220
<p>3 社会に向かって なりきり書類選考に挑戦／志望理由書を書こう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・志望理由書をまとめ、将来の自分を考える学習を、ステップごとに丁寧に位置づけた。(第1・2・3号) 	pp. 221-228
<p>4 視点を変えて 人類の進化から考える「心」の誕生／ロボットに心はあるか／クオリアと心／複数の文章を比較し、分析しよう／考えを整理する方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定のテーマについて書かれた複数の文章を比較し、自分の意見をもつための教材として、「人類の進化から考える『心』の誕生」「ロボットに心はあるか」「クオリアと心」を位置づけた。(第1号) ・三つの文章を比較・整理し、話し合いの例を通じて自分の考えを広げたり深めたりする力を養うことができる教材を位置づけた。(第1号) 	pp. 229-258
<p>5 問いを深めて書く ——小論文② 問いを立てて書こう／文章を読んで書こう／統計資料を読んで書こう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発想法を用いて考えを膨らませながら書く学習、文章や統計資料を読み取った上で自分の考えを書く学習を位置づけ、論理的で説得力のある文章を書くことができるよう配慮した。(第2号) 	pp. 259-270
<p>6 現代を考える 政治の本質／「である」と「する」こと／民法の条文／話し合ってみよう／考えを深めるための話し合い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会についての理解や問題意識を養うための教材として、「政治の本質」「『である』ことと『する』こと」を位置づけた。(第1・3号) ・探究学習の準備段階として、グループで話し合い、テーマを決め、問いを深める力を養うことができる教材を位置づけた。(第1号) 	pp. 271-296
<p>7 探究し続けるために 人口減少社会の到来／エネルギー耕作型文明への転換／「うつわ」的利他／身近な課題に取り組み、社会に提言しよう／探究的な学習の進め方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未来への問題意識を養い、生命・自然・環境を尊び、他者と協調し合いながら社会の形成に参画する態度を育むことをねらいとし、「人口減少社会の到来」「エネルギー耕作型文明への転換」「『うつわ』的利他」を収録した。(第2・3・4・5号) ・問いを立て、具体化し、自分の意見をまとめる学習を位置づけ、探究学習の手順を丁寧に解説した。(第2・3・5号) 	pp. 297-329

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・全編を通じて色彩豊かな写真、図版、イラストなどを多用し、学習への興味をかき立て、積極的に学習活動に取り組む姿勢を引き出すよう配慮した。
- ・論理的な思考を行う際に参考になる事項を「論理の窓」に提示し、さまざまな学習場面において参照したり、自学自習で活用したりできるよう配慮した。
- ・「付録」として、「情報収集の方法」「著作権と引用」「論理のことば索引」を位置づけ、情報収集や引用のしかた、論理的な表現に対する正しい知識・技能を身につけるとともに、さまざまな学習場面において参照したり、自学自習で活用したりできるよう配慮した。
- ・「巻末資料」として、「未来を探究するために」「論理を使いこなす」「発想法・思考法」を位置づけ、さまざまな学習場面において参照したり、自学自習で活用したりできるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-190	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
50 大修館	論国 050-902	新編 論理国語 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

●基本方針

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的、批判的、創造的に考える力を伸ばし、言葉で伝え合う力を高めることができるよう配慮する。
- ・言葉がもつ価値への認識を深め、語彙を豊かにし、言葉を使いこなす力を身につけるとともに、生涯にわたって読書に親しむ態度を養い、他者や社会に対する関心を育むことができるよう配慮する。
- ・学習指導要領に示された教育目標への対応に配慮しつつ、現代社会における多様な話題・題材を提示して生徒の興味・関心を喚起し、言語活動をとおして生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮する。

●構成

- ・全体を「論理を培う」「論理を活用する」の2部構成とした。論理的思考力を育む教材を、学習のねらいに応じて15の単元に分け、基礎から発展への学習段階に配慮しながら位置づけた。

●教材選択にあたっての配慮

- ・各教材でねらいとする資質・能力をふまえつつ、AI（人工知能）、言語、コミュニケーション、自然科学、情報社会とメディア、環境問題、スポーツ、労働と生きがいなど、現代社会を生きる上で重要となるさまざまなテーマを押さえ、生徒の興味・関心を喚起するよう配慮した。
- ・文章を読んだり書いたりする際に参考になる統計資料を豊富に提示し、活用できるよう配慮した。
- ・「読書の広場」において、バラエティ豊かな文章を掲載し、ブックガイドも位置づけて、本のジャンルの多様さ、さまざまな価値観や世界観を知り、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させることができるよう配慮した。

●教材化の工夫

1 ねらいとする資質・能力の明確化

- ・単元のとびらには、その単元でねらいとする学習内容を示し、身につけるべき資質・能力を意識し、学習の見通しをもちながら学習に取り組むことができるよう配慮した。
- ・「読むこと」の教材では、本文下欄に「脚問」、「学習」コーナーに「学習のポイント」を置いて、文章を的確に読み取る力が身につくよう配慮した。
- ・「読むこと」の教材では、本文下欄に、語句・漢字の学習に役立つ「語句」「漢字」欄を位置づけて読み替えや同音異義語、対義語なども提示し、「学習」コーナーの「語句と漢字」欄とあわせて、語彙・漢字の学習に資するよう配慮した。さらに「論理のことば」欄を設け、付録の「論理のことば索引」とあわせて、論理的な表現の学習に資するよう配慮した。
- ・「書くこと」の教材では、各教材の冒頭に「目標」を掲げて、身につけるべき資質・能力を意識し、学習の見通しをもちながら学習に取り組むことができるよう配慮した。また、教材末には「チェック」欄を設けて、教材の「目標」を達成できたかどうかを確認できるようにした。
- ・「書くこと」の教材では、学習活動に取り組む上で重要な点を「ポイント」にまとめ、具体例や図解等を交えて平易な解説を行った。
- ・目次の後に、「この教科書で身につく力」を掲載し、「読む」「書く」の観点ごとにねらいとする資質・能力を明示し、確かな学力を身につけることができるよう配慮した。

2 論理的な思考力を育む系統的な学習

- ・具体と抽象、対比、主張と根拠、類推など、論理的な思考力を育成するために必要な要素を系統的に配置し、論理的な文章を読んだり、論理的に文章を書いたり、論理的に意見を述べたりする活動をとおして、確かな力を身につけることができるよう配慮した。
- ・各単元末に「論理の窓」、「巻末資料」に「論理を使いこなす」「発想法・思考法」を位置づけ、さまざまな学習場で参照できるよう配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容														該当箇所	配当 時数		
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等														
					A書くこと					B読むこと									
		(1)	(2)	(3)	(1)			(2)			(1)			(2)					
アイウエ	アイウ	ア	アイウ	エ	オ	カ	アイウ	エ	アイウ	エ	オ	カ	キ	アイウ	エ	オ			
【第1部】 1 論理と出会う	風をとおす	○	○	○														pp. 11～26	A : 0 B : 4
	「論理的な人」とはどういう人か	○	○	○											○				
	「論理」への第一歩	○	○	○															
2 具体と抽象	「論理」とは何か	○																pp. 27～52	A : 1 B : 9
	具体と抽象の関係	○	○		○														
	突然変異と進化の関係	○	○	○	○									○	○				
	「話せばわかる」は当然か	○	○	○	○	○										○			
	ウサギの耳はなぜ長い？	○	○	○	○	○									○		○		
3 対比をとらえる	具体と抽象を使いこなそう	○	○	○	○													pp. 53～76	A : 1 B : 9
	さまざまな具体化	○	○	○	○														
	比べて説明する	○	○	○	○														
	米の種類と食文化	○	○	○	○										○	○			
	対話の精神	○	○	○	○											○			
4 主張をつかむ	デジタル地図から見える世界	○	○	○	○										○	○		pp. 77～100	A : 0 B : 9
	対比を使って主張する	○	○	○	○			○	○										
	対比を使いこなす	○	○	○	○														
	主張と根拠を考える	○	○	○	○														
	文化としての科学	○	○	○	○	○									○	○			
5 論理的に書く ——小論文①	登山はスポーツか旅か	○	○	○	○	○									○			pp. 101～ 110	A : 10 B : 0
	人工の自然	○	○	○	○	○											○		
	要約の方法	○	○	○	○										○				
	根拠のいろいろ	○	○	○	○														
	根拠をふまえて主張を書こう	○	○	○	○			○		○									
6 統計資料を活用する	構成を考えて書こう	○	○	○	○													pp. 111～ 126	A : 0 B : 6
	反論を想定して書こう	○	○	○	○				○	○									
	文章を磨き上げよう	○	○	○	○				○	○									
	文章と資料を関連づけて読む	○	○	○	○										○	○			
	量の時代から質の時代へ	○	○	○	○										○	○			
7 比べて読む	若者の「海外旅行離れ」は本当か？	○	○	○	○										○			pp. 127～ 150	A : 2 B : 9
	統計資料を活用しよう	○	○	○	○										○				
	グラフの種類と特徴	○	○	○	○										○				
	情報を比較・整理する	○	○	○	○										○		○		
	「言葉の挿れ」を認めるか	○	○	○	○										○		○		
8 レポートを書く	紙の本はなくなる	○	○	○	○	○									○	○		pp. 151～ 160	A : 10 B : 0
	情報化と紙の本のゆえ	○	○	○	○	○									○	○			
	比べて読もう	○	○	○	○			○	○						○		○		
	情報整理の方法	○	○	○	○														
	テーマを決め、問いを立てよう	○	○	○	○			○		○									
読書の広場	情報を収集しよう	○	○	○	○													pp. 161～ 174	A : 0 B : 1
	情報を整理しよう	○	○	○	○														
	レポートをまとめよう	○	○	○	○														
【第II部】 1 自分を広げる	「夢中」ということ	○	○	○	○										○			pp. 175～ 190	A : 0 B : 5
	「きっと叶いますよ」	○	○	○	○														
	コルベ神父	○	○	○	○										○				
	探究する力	○	○	○	○										○		○		
	補助線を引きながら考える	○	○	○	○										○		○		
2 文化を見つめる	自分を客観的に見つめよう	○	○	○	○													pp. 191～ 220	A : 0 B : 9
	論理はなぜ必要か	○	○	○	○														
	和の思想、間の文化	○	○	○	○	○									○	○			
	アートの作用	○	○	○	○	○									○	○			
	ミロのヴィーナス	○	○	○	○	○									○	○			
3 社会に向かって	根拠を吟味しよう	○	○	○	○										○	○		pp. 221～ 228	A : 8 B : 0
	根拠を吟味する観点	○	○	○	○										○	○			
	なりきり書類選考に挑戦	○	○	○	○			○											
4 視点を変えて	志望理由書を書こう	○	○	○	○													pp. 229～ 258	A : 2 B : 9
	人類の進化から考える「心」の誕生	○	○	○	○										○	○	○		
	ロボットに心はあるか	○	○	○	○										○	○	○		
	クオリアと心	○	○	○	○										○	○	○		
	複数の文章を比較し、分析しよう	○	○	○	○				○	○	○				○	○	○		
5 問いを深めて書く ——小論文②	考えを整理する方法	○	○	○	○													pp. 259～ 270	A : 12 B : 0
	問いを立てて書こう	○	○	○	○														
	文章を読んで書こう	○	○	○	○														
6 現代を考える	統計資料を読んで書こう	○	○	○	○													pp. 271～ 296	A : 2 B : 9
	政治の本質	○	○	○	○										○	○	○		
	「である」ことと「する」こと	○	○	○	○										○	○	○		
	話し合って考えを深めよう	○	○	○	○				○	○	○				○	○	○		
	考えを深めるための話し合い	○	○	○	○				○	○	○				○	○	○		
7 探究し続けるために	人口減少社会の到来	○	○	○	○										○	○	○	pp. 297～ 329	A : 2 B : 11
	エネルギー耕作型文明への転換	○	○	○	○										○	○	○		
	「うっわ」的利他	○	○	○	○										○	○	○		
	身近な課題に取り組み、社会に提言しよう	○	○	○	○				○	○	○				○	○	○		
付録	探究的な学習の進め方	○	○	○	○										○	○	○	pp. 330～ 335	—
	情報収集の方法	○	○	○	○														
	著作権と引用	○	○	○	○														
巻末資料	論理のことば索引	○	○	○	○													巻末資 料 1～7	—
	未来を探究するために	○	○	○	○														
	論理を使いこなす	○	○	○	○														
	発想法・思考法	○	○	○	○														

総計 A : 50
B : 90
計 : 140